

公益信託世田谷まちづくりファンド

第24回助成事業 審査講評

全体講評

運営委員長 土井 良浩

■今年度助成事業の応募状況と審査結果

今年度助成事業は、2016年4月から「はじめの一步部門」、「まちづくり活動部門」、「10代まちづくり部門」の3部門の募集を開始し、各6件、23件、1件の応募がありました（申請金額計897万円）。昨年度と比べて4件の減少となりましたが、これまで助成を受けたことのないグループからの応募が16件もあり、新たなまちづくりの担い手が台頭し続けているという点では明るい兆しもありました。

これらの応募を受け、6月5日（日）に三茶しゃれなあどにて、24回目の公開審査会が開催され、厳正な審査の結果、全29件への助成が決定しました（助成総額は499万円）。昨年度、一昨年度は「若者による若者の居場所づくりや就労支援」をテーマとする企画が多かったのですが、今回は子どもを対象とする学び・遊び・食生活の支援、子育て中の親への支援にかかわる活動が多かった点が特徴的でした。

採用されたグループの皆さま、おめでとうございます。来年の3月末まで順調に活動が展開してゆくことを願っています。当初申請額からの減額もあり、考えた通りに事が運ばないこともあるかもしれません。そんな時は、グループ間で繋がって、互いが持っている資源（人材や得意技等）を交換し合ったり、世田谷トラストまちづくりから情報を得たりするなどして、活動を豊かに進めていただければ幸いです。

■ご報告とお知らせ

以上とは別に、ご報告とお知らせがあります。

まずご報告ですが、昨年度まで公開審査会と同日開催していた、前年度助成事業の最終活動発表会を審査会と別日の5/29に開催しました。発表会・審査会の同日開催は、新旧全グループが一堂に会する希有な機会でしたが、活動成果をじっくり聴くための時間が取れていませんでした。このため発表会を審査会から切り分けて、まちづくり活動部門3度目の助成グ

グループ、助成継続を希望されないグループ、災害対策復興まちづくり部門の助成グループの皆さんにお集まりいただき、活動発表をしていただきました。活動の具体的ノウハウや一年間の成果、今後の活動方針などの詳細を伺うことができ、当日参加されたグループの皆さんにとっても今後の参考になることが多かったと思われます。運営委員にとっても採択させていただいて本当に良かったと実感できる素晴らしい機会となりました。発表会終了後、いつもファンドの審査会や発表会をサポートしていただいている、まちづくり広場の松田宏さんにご尽力いただき、久しぶりの交流会を開催することができました。ここに記して感謝の意を表したいと思います。

もう一点ご報告になります。運営委員会で検討を重ねた結果、「災害対策・復興まちづくり部門」は昨年度をもって終了する運びとなりました。過去に採択された助成グループの活動は極めて素晴らしく、この点は運営委員全員の評価が一致したところですが、これまでの活動成果を多くの区民に知っていただくことの難しさ、部門への応募数の停滞など、部門設計上の課題が議論され、上記の判断に至りました。運営委員会では今後、世田谷区が実施している防災施策について把握した上で、市民主体の防災活動の可能性や、その支援のあり方について議論し、来年度の防災関連新部門の設定も視野に入れつつ、引き続き検討してゆく予定です。

最後に、「キラ星応援コミュニティ部門」についてお知らせです。今年度も企画提案を募集しますが、応募開始は7月中頃を予定しています。9月に一次審査会、12月に二次審査会を予定しています。同部門は現在ファンドの他部門で助成を受けているグループも応募可能なので、応募をご検討いただいても結構ですし、興味のある方は審査会場に足を運んでいただけたらと思います。